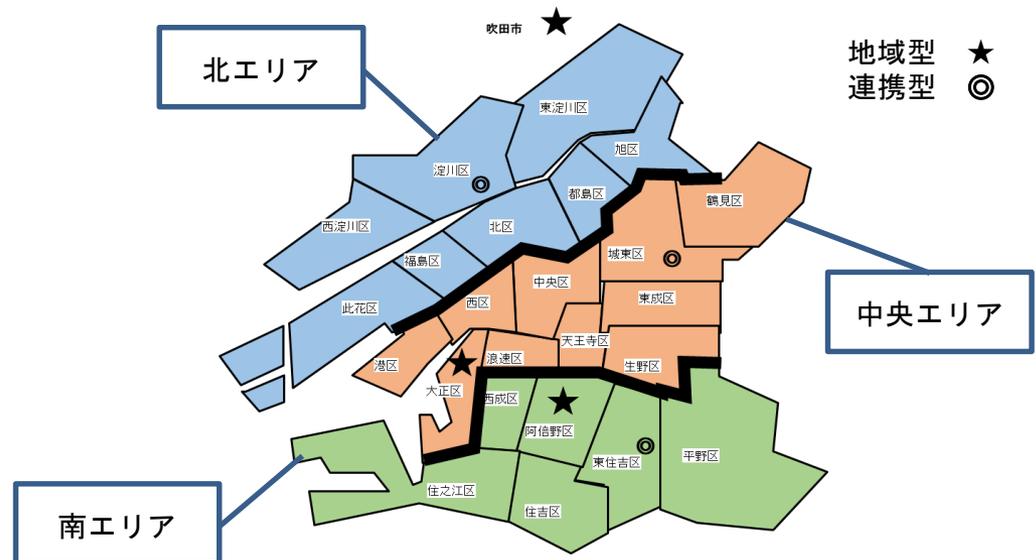


○ 事業の経過

- ・平成21年度から、市内を3エリア（北・中央・南）に分けて各エリア担当の地域型3センターを設置し、認知症疾患に関する鑑別診断、行動・心理症状・身体合併症への対応、専門医療相談等、地域連携や情報発信を実施。
- ・平成29年度には認知症高齢者の増加に伴う鑑別診断に対応するため、各エリアに連携型を1か所増設。（市内計6か所）
- ・令和元年度から、地域型3センターに介護支援専門員等の専門職員を配置することで、診断後支援機能を付加し、診断直後の患者や家族の生活面や精神面のフォローを行い、相談支援体制を強化。（連携型の3センターは、令和2年度から同機能付加）

○ 設置状況と担当圏域

北エリア	地域型：市立弘済院附属病院 連携型：咲く花診療所
中央エリア	地域型：ほくとクリニック病院 連携型：済生会野江病院
南エリア	地域型：大阪市立大学医学部附属病院 連携型：葛本医院



○ 令和3年度の取組み

令和3年9月30日 第1回大阪市認知症疾患医療センター連携協議会

- ・オンラインにより2部構成で実施。
- ・参加者は、各センターの医師や精神保健福祉士等、認知症サポート医、認知症地域支援推進員。
- ・第1部は、参加者による意見交換、COVID19感染拡大の影響に関する状況の共有などを実施。
- ・第2部では、各センターの心理士や精神保健福祉士等の相談員による診断後支援について意見交換を実施。

※第2回は、令和4年3月に開催予定

令和4年2月15日 認知症疾患医療センターに携わる職員スキルアップ研修

- ・オンラインにより実施。
- ・参加者は、大阪府域の認知症疾患医療センターの心理士や精神保健福祉士など。
- ・浅香山病院の柏木一恵氏（精神保健福祉士）から講演。
- ・講演内容は、「認知症疾患医療センターにおける相談員の役割」をテーマに実施。
- ・講演後は、各医療機関ごとにグループワークを行い、日頃の取組み状況等について、意見交換を実施。

	参加 医療機関	参加人数
大阪府	新阿武山病院、さわ病院、八尾こころのホスピタル、大阪さやま病院	6人
大阪市	大阪市立弘済院附属病院、咲く花診療所、ほくとクリニック病院、大阪市立大学医学部附属病院	8人
堺市	浅香山病院	1人

○ 令和3年度の取組み

令和3年12月 認知症疾患医療センターに期待される役割に関するアンケート調査

- ・24区の認知症初期集中支援チーム員を対象に実施。
- ・東京都健康長寿医療センター研究所の了承を得て、令和3年度老健事業99「認知症疾患医療センター運営事業の事業評価のあり方に関する調査研究事業」の項目に準じて調査を実施。
- ・調査結果（抜粋）
 - 1) 連携経験 100%（月に1回未満が67%、月に1回～4回が33%）
 - 2) 期待する役割（上位8位まで）

順位	分類	期待する機能	合計平均値
1	専門的医療機能	認知症の行動・心理症状(BPSD)に対する外来診療	3.92
2	診断後支援等機能	かかりつけ医との連携(紹介・逆紹介・情報提供など)	3.92
3	専門的医療機能	認知症疾患の鑑別診断	3.88
4	診断後支援等機能	若年性認知症に関する精査	3.79
5	診断後支援等機能	認知症サポート医との連携	3.71
6	地域連携拠点機能	認知症初期集中支援チームの後方支援	3.71
7	専門的医療機能	認知症の行動・心理症状(BPSD)に対する入院診療	3.67
8	地域連携拠点機能	地域包括支援センター職員からの相談の応需・助言・連携	3.67

(合計平均値の算出方法) n = 24
 ・項目ごとに「1.期待していない」, 「2.やや期待している」, 「3.まあまあ期待している」, 「4.とても期待している」の4段階で評価し、それぞれ1点～4点として扱う
 ・各項目の平均点をとって、その点数をその項目の期待されている程度として扱う。
 例: $(4+3 \cdot \cdot +4+4) / 24 = 3.92$

- **全国の調査結果は出ていないが、本市の結果からは日頃からよく連携されていることが分かった。**
- **概ね実際に行われている機能と期待されている機能が一致している。**

その他

- ・北エリアの連携型のセンターである医療法人遊心会「咲く花診療所」が令和4年3月31日をもって廃院するため、令和4年4月1日以降、北圏域を担当する連携型のセンターとなる医療機関について、改めて指定予定。